

感性の雫

森野 水琴

四月一日に彼は高遠^{たかとお}に桜を見に出かけた。高遠は長野県にあり日本三大桜の名所で知られている。

新宿から電車で茅野^{ちの}まで行き、臨時バスに乗り換え、高遠に着いた。

今年は寒い日が続き、開花にはほど遠い状況であった。

高遠のバス停の近くの桜の木に、一輪開花しているのを認めたものの、一面に桃色のつぼみばかりであった。

タカトオコヒガンザクラという固有種で、見慣れたソメイヨシノよりは桃色が目立つ。

開花前とあって、高遠城址公園^{たかとおじょうしこうえん}は閑散としていた。

一面のつぼみが開花を待ち焦がれている風である。

新宿は高遠と姉妹都市ということもあり、新宿にもタカトオコヒガンザクラの木がある。

帰りに新宿駅の東南口前の広場に立ち寄ると、すでに満開を過ぎ、散り始めていた。

何も高遠まで出かけなくてもと思うが、そうではない。

開花を今か今かと待つ つぼみは 新たな感性に いざなってくれる